

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	社会人のキャリアアップ教育プログラム(スキルアップコース)		
事業名	中高年の培ってきた技能等に人間関係対応力と教育力を付加する教育プログラム		
法人名	学校法人 岩谷学園		
学校名	岩谷学園アーティスティックB専門学校		
代表者	岩 谷 伸 一	担当者 連絡先	飛田 孝光
<p>1. 事業の概要</p> <p>中高年が企業で培ってきた技能に人間関係能力と教育力を付加するプログラムを開発し講座を実施する。講座では教育システムや講座展開のための基本を学び、受講者の各専門をすぐに教育展開できる実践的な教育を実施する。また、お客様対応のための人間関係対応力等についても学習していく。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>今回の目標は、教育のためのプログラム作成と実践的な講座を実施することにある。プログラムについては、全ての講座で作成が出来た。ただ、実施する講座によって、受講生の都合により開講出来ないものもあった。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>今回の事業を行って、各講座のプログラムと使用する教材等が完成した。また、各回の授業をビデオ撮影することにより、終了後にチェックを行えることと、社会人のため、出席出来ないときの自宅学習としてのコンテンツも作ることが出来た。</p> <p>③今後の活用</p> <p>実施したプログラムの評価アンケートにより、フィードバックを行い、プログラムを改善して上で、次年度以降継続して講座を開講する。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>今回の講座を実施した結果、社会人対象での講座は、短期間で行うことが非常に重要だとわかったので、プログラムを細分化して実施を行いたい。また、講座受講修了者が自分の専門を教育展開できるような場所を設定(学園遊休施設等の開放を想定)したり、学園の職業紹介所を通して、中高年受講者の再就職支援に取り組む。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

発行した証明書はありませんでした。

②カリキュラムの内容

ア. 実践教育講座

i 1期 教育基礎講座

教員になるための基礎として、心構え・レッスンプランの作成・講義テクニックなどを学ぶ。

ii 2期 インターンシップ

当学園での授業に参加。

iii 3期 教育実践講座

基礎講座にて作成したレッスンプラン等に基づいた講座を実施し、より具体的なものに仕上げる。

イ. キャリアデザイン

自己キャリアの確認とそのキャリアをどのように活用していくのか、今後のキャリアプランニングを行います。また、受講生に対するカウンセリングに必要なマインドとは何かを学ぶ。

ウ. 広報実践トレーニング

広報の現状、Webマーケティング、キャッチコピーの作り方など講座開設に役立つ内容とした。

エ. コミュニケーションリテラシー

学習環境や就労環境を良くするためのビジネスマナーやコミュニケーションについて学ぶ。

③講座の実施

ア 実践教育講座

実施時期

教育基礎講座 10月7日(火)から11月25日(火)の毎週火・木

午後6時30分から9時30分 全15回

教育実践講座 12月9日(火)から2月5日(木)の毎週火・木

午後6時30分から9時30分 全12回 *12月19日から1月7日を除く

イ キャリアデザイン

実施時期

10月29日(水)から11月26日(水)の毎週水曜日

午後6時30分から9時30分 全5回

*募集が講座の中心となるグループ学習のための定員に達しなかったため、閉講となった。

ウ 広報実践トレーニング

実施時期

11月27日(木)および12月4日(木)

午後6時30分から9時30分 全2回

エ コミュニケーションリテラシー

実施時期

1月23日(金)および1月30日(金)

午後6時30分から9時30分 全2回

④支援対象者(受講者)の状況

今回の講座参加者人数 20名

ア 実践教育講座

初めて、教育学に触れる方もいれば、大学時に学んでいた方もいたが、最新の教育学とその実践について、改めて学習できたことが、非常に良かったとの感想が多かった。ただ、仕事の都合により、欠席される方が年始めから多くなり、全ての講座を履修できずに終わってしまった受講生が多かったのが残念である。

ウ 広報実践トレーニング

社会人の方でも広報に携わっていないと、広報についての知識はあまりない。ここでの実習中心の学習では、実例を挙げての講義だったので、参加した受講生には、最新の知識が習得でき、大変有意義なものだった。

エ コミュニケーションリテラシー

コミュニケーションについての知識を再確認し、新しい考え方を身に付けられる講座だったので、参加者は、人のネットワークを構築するための積極性が高まったと思う。